

た ちよう
なか
町
田

蘇我一族田中臣の住居

古代豪族・蘇我氏の初代が、宣化天皇時代から政治の最高位である大臣（おのおみ）を務めた「稲目」でした。その息子たちも境部臣（さかいべのおみ）・田中臣・石川臣などと名乗る大貴族になり、蘇我稲目の本宗家ともども権勢を振るっていたことが日本書紀などの古い記録に見えます。

稲目のころの蘇我一族は、畝傍山周辺から飛鳥の各地に本拠を置いており、現在の田中町あたりに田中臣の一族が住居を構えていました。日本書紀の舒明天皇八（六三七）年条に「岡本宮に災（ひつ）けり、天皇遷（うつ）りて田中宮に居（ま）します」とあり、岡本宮の火災で天皇が田中臣の本拠に宮殿を一時、移したことからこれが分かります。従って「田中」の地名が古く飛鳥時代からあったこととなります。

江戸時代に「田中村」と呼ばれた当地は、長く高取藩の領地となりました。明治二二年に白檀村の大字になります。昭和三年に畝傍町の大字となり昭和三一年に檀原市域に編入され「檀原市田中町」になりました。飛鳥時代からずっと続く、まことに古い歴史をもつ町名だということです。